

WORK

一見、誤りではないように見えるが、実は誤りであることを、身近な事例から探してみよう。逆に、誤りに見えるが誤りでないことはあるだろうか。

--	--

WORK

「感じる」過程を考えるうえで、内部手がかりと外部手がかりがどのようなものかを理解することは重要である。自分や他人の感情や意図、行為などを知覚するための手がかりとしてどのような手がかりがあるだろうか？そして、それらの手がかりを使うと自分（そして他人）の感情や意図などがどんな状態であるかがわかるだろうか？（例：外部手がかり…顔の紅潮→興奮、感情状態の高まり）

WORK

盲点を見つける

盲点を見つけてみよう。左目の盲点を見つけるには、右目をつむり、下の図の上段の十字（凝視点という）をなるべく目に近づけて見る。そして、その凝視点を見続けたまま本を鼻先からゆっくり遠ざけてゆく。すると、20～30cmくらい離れたときに、左側のスマイルマークが消える。同じことを下段の図で行うと、途中途切れた線がつながって見える。これらのとき、その円と線の切れ間に対応する網膜上の位置に盲点がある（図 2.2）（右目の盲点の場合は、左目をつむって、本を逆さまにして同様のことを行う）。



--	--

第3章は WORK なし

EXERCISE**記憶範囲（短期記憶の容量）を調べてみよう**

下には、3桁から14桁のランダムな数字列が並んでいる。これを用いて、自分、あるいは、自分以外の人々の記憶範囲を調べてみよう。

3桁	473
4桁	7350
5桁	23209
6桁	599951
7桁	1026866
8桁	96842504
9桁	857813260
10桁	3879130735
11桁	43189246238
12桁	654709958348
13桁	5143953513407
14桁	18286379057209

EXERCISE

ワーキングメモリ容量を調べてみよう

下には、芋阪（2002）が作成した日本語版リーディングスパンテストを模した刺激文が示されている。これを用いて、自分、あるいは、自分以外の人のワーキングメモリ容量を調べてみよう。

実際のやり方とは異なるが、文を声に出して読みながら下線の単語を覚えていき、文をすべて読み終わったら、最後の文に含まれている単語以外から、覚えている単語を答える、というやり方でやってみよう。

〈2文〉

サッカーで手を使ってよいのはゴールキーパーだけである。
その国の科学技術は、先進国の中でも非常に優れている。

〈3文〉

日本語の中には、英語でそのまま使われているものもある。
弟が上京するために、父と母が駅まで彼を送っていった。
私たちは、とても1日ではやり切れない宿題を出された。

〈4文〉

ある人にペンをあげたら、その人はものすごく喜んだ。
母親はスーパーで買い物をして、それから自宅に帰った。
仕事で疲れたときに、近くの公園でのんびりしたくなる。
父親はきまじめな人で、いつも行動パターンが一緒だった。

〈5文〉

男は子どもに向かって、大きな声で危ないぞと叫んだ。
夏休みの宿題で、宇宙人が存在する可能性について調べた。
高校生たちは、図書館で必死に受験勉強をしていた。
突然大きな音が聞こえてきて、思わず腰が抜けてしまった。
おじいさんがつえをつきながらこちらに歩み寄ってきた。

--	--

WORK

ここまで、さまざまな「忘れる」について触れてきたが、結局、人間にとって「忘れる」ということはよいことなのだろうか、それとも、悪いことなのだろうか？ 両方の側面から考えてみよう。

EXERCISE

1万円札と1000円札の表面と裏面を、よく思いだしたうえで、できるだけ正確に描いてみよう。

WORK

ここまで、目撃証言は私たちが思っている以上に不正確であることが説明されてきたが、それでは、正しい目撃証言を引き出すには、どのような工夫ができるだろうか。第4章をヒントに考えてみよう。

--	--

WORK

なぜ、私たちは、カテゴリー化を行うのだろうか。そのメリットを考えてみよう
(ヒントは、「認知の効率」や「言語（概念）獲得」および次項）。

WORK

なぜ、メタ記憶は概して不正確なのだろうか？ いろいろな理由を考えてみよう。

--	--

WORK

知らない街のレストランで開催されるパーティに出席することになった。この会場へ行くという問題は良定義問題か。良定義問題でないとすれば、どんな制約を設けたら、この問題を良定義問題として扱うことができるだろうか。

WORK

日常生活の中から、ヒューリスティックが助けになる場合と妨げになる場合の例を、それぞれ1つずつ挙げて説明してみよう。

WORK

2-4-6 課題で、「偶数列」という仮説をもっているとき、7-5-3 を提示して予想通り「規則に合わない」という返答を得たとする。この事態は「確証」といえるか。また、この方略は確証バイアスによるといえるか。

WORK

実用的推論スキーマ理論に則って、具体的ながら正答率が低いと予想されるウェyson選択課題の新課題（4枚のカードとそれに関する背景情報などのストーリー）を自分で考案し、なぜ正答率が低いと予想されるかを説明してみよう。

WORK

論理性と合理性は、似ているが同じではない。たとえば、バグルスタン小公国の例で示した王子の発言「65歳以上ならば仕事がない」は、「65歳以上で定年退職する」という事実を言いかえているにすぎないので論理的に真であるが、こういう発言は冗長なので、あまり合理的なものには感じられない。つまり、論理的だが合理的ではない。このように、「論理的である／でない」「合理的である／でない」の2×2の4つの組み合わせのそれぞれについて、具体的な事例を自分で考えてみよう。

--	--

WORK

商品購入後の一定期間、手数料なしで返品を受け付ける店がある。このようなやり方が赤字に結びつかないのはなぜだろうか（ヒント：保有効果）。

あなたの店で、A（8GB, 600円）とB（16GB, 1000円）という2種類のメモリを販売しているとしよう。あなたは、Bの売り上げを伸ばすため、新たなダミー商品の投入を画策している。どのような商品が効果的と考えられるか。

WORK

新卒で就職する場合と転職の場合で、仮に、選好および他の要因（知識や経験、待遇など）がまったく同じであるとしても、選択結果が変わるという事態が起こりうる。それはどういう場合で、なぜだろうか。保有効果、現状維持バイアス、不作為バイアスについて、それぞれ考えてみよう。

WORK

--	--

WORK

日常生活の中で、自分の気づかぬうちに行動や認知が変化したのかもしれないと思われる経験はあるだろうか。もしあるなら、そのような効果を実験で確かめるにはどうしたらよいか、考えてみよう。

WORK

心理学の研究手法として、考えの過程や行動の理由について、アンケートやインタビューで本人に尋ねることがあるが、このような方法に潜在的な問題はないだろうか。もし問題があったとしたら、どのような可能性が考えられるか。

--	--

WORK

①心の状態や過程を知るために、協力者に何かについての印象や考えの詳細（内部状態）や、その過程などについて報告を求めたとする。この方法に問題があるとすれば、それは何か。

②人の心的な要素（内部状態）に注意を払わないで、観察可能な行動（外部状態）だけを研究対象にしたとする。この方法によって、心的過程についてどの程度のことかわかるか。また、その場合、見落とししたり切り捨てられてしまうような心理現象としては、どのようなことが考えられるか。

WORK

2014年12月、著名な物理学者ホーキング博士が「人工知能は将来人類を滅ぼしかねない」と語ったと報道されて話題となった。しかし、そうは考えない研究者もいる。あなたは、人工知能が今後さらに進歩すると、人類に対して何らかの不利益をもたらす危険性があると思うか。もしそう考えるなら、それはどのようなことで、そうならないためには、どのような注意や規制が必要になると思うか。もしそう考えないなら、それはなぜか。

WORK

進化に基づく説明は、差別を正当化・合理化するために利用されたり、優生思想のように政治的に利用されたりしてきた。そういったことを根拠に進化的アプローチを否定する考えは正しいだろうか。正しくないとするならばなぜか。

WORK

QOL (quality of life) ということばをしばしば耳にする。この概念は、私たちに生活における物の満足度 (量) ではなく、心の充実度 (質) を問いかける。物や情報が溢れる現代において、私たちは、認知機能や心的過程のどのような問題の解明に取り組むべきだろうか。また、あなたは認知や心について、さらにどんなことを知りたいだろうか。

--	--